

# 留学生向け日本語科目における日本語観察レポートの試み

## - 教室の外での学びを支援する方法 -

### ‘Observing Japanese’ Assignment in the Second Language Class at the College: Learner’s Learning outside the Classroom

久川 伸子

HISAKAWA Nobuko

This paper discuss about how the assignment can support learner’s learning outside the classroom.

In the ‘Watching Japanese’ project which started in 2001, the assignment also has important roles to support learner’s learning. In this assignment learner observe Japanese words or phrases in the real communication and analyze them from the number of social, psychological perspective.

From the data, we find that learner is able to learn about aural communication in Japanese by themselves through the process of making assignment.

## 1 はじめに

本学に入学してくる留学生の中には、短期間に語彙や文法を覚え、筆記試験対策に日本語の学習時間の大部分を費やしてきた者が少なくない。このような学生が話す時、何をいいたいかはわかるが言い方に配慮が欠けていると感じたり、相手が婉曲的な表現を用いているのに、それが理解できずにトラブルとなってしまう例などがみられる。しかし入学後は専門科目等の学習に追われ、日本語の学習に費やせる時間は少ない。

このような留学生の現状を考慮し、筆者は 2001 年から日本語観察という方法を話しこ  
とば教育に取り入れてきた。(久川 2002) 本稿では、その方法の一環として実施した日本

語観察レポートという試みを通じて、「教室の外での学びを教室の中で支援する」方法について論じる。

## 2 日本語観察レポートの目的

学習心理学における観察学習の研究は、社会的行動の学習を多く取り扱ってきた。ことばの学習も社会的行動の学習を伴って初めて実践的な意味を持つといえよう。社会から切り離された語彙や文の知識の集まりを並べてみても、日常、自分が所属する集団で、共同体の参加者としてふさわしいコミュニケーションが成立することは期待できないだろう。

日本語教育でも、日常生活において学習者自身がどこでどのように学ぶかが課題として指摘されてきた（春原 1992）。また、談話分析を日本語の授業に応用し、「日本の思想や文化も射程に入れて、観察や分析を行なう」（メイナード 1997）ことも提案された。しかし、入学してきた留学生と話してみると、教科書の単語や文をいわゆる文法積み上げ式で学び、それらをそのまま発話に用いていることが多い。しかもその教科書においては、日常の使用頻度の低い文が重視され、日常から離れた例文が日本語教師にも刷り込まれているのではないかと（清ルミ 2003）という問題提起があり、教科書自体の見直しが迫られている。

このような現状の中で、日常から切り取った単語や文を、社会から切り離れたまま練習してきた学生や、教科書の例文を刷り込まれた通り発話している学生に対して、教室の中でどのような学習支援ができるだろうか。

具体的な支援方法として、筆者はまず、学習者の本来持っている能力に注目すべきであると考えた。成人学習者は、第一言語を用いて、社会のなかでコミュニケーション行動をしてきた。彼らは、観察と分析、更には検証を通じて自ら学ぶ能力があるはずである。

そこで、教室内で日本語を観察し、多角的な視点で分析するという授業を行なった。同時に、日本語観察レポートという課題を出すことによって、学習者が参加している日常の共同体の中での学びを更に支援できるのではないかと考え、この方法を試みた。

学習者はレポートの作成を通じて、本来持っている能力を意識化するという過程を体験する。また、日常の共同体の参加者としての体験を語ることで、自分が教室の外でいかに学んだか、学べるかを意識化する。このことは日本語観察レポートという課題の第 1 の目

的である。

また、教室内の発話だけで、一人一人の学習者の内面で起きている認知の仕方から発話までの過程を教師が知ることは難しい。レポートの第 2 の目的は、教師がそれを知り、次の段階での支援方法を検討する際の参考にあることにある。

第 3 の目的は、学習の評価である。このレポートは、春学期の成績評価の一部として使用された。

### 3 実施の方法と評価

日本語観察レポートは、レポートの作成過程を通じて、教室外での学習を促進することを目的としている。そのため、課題の意図を理解し、レポート作成の過程を教師と学習者が相互に確認できるよう、途中経過の報告と質疑応答の時間を授業時間内に設け、課題の提示から提出期限までには 1 ヶ月以上の期間をとった。

レポートの作成にあたって、学習者には次の点を指示した。

- ・ 日本語の中で気になることばや表現を 1 つ選ぶ
- ・ そのことばや表現を選んだ理由を述べる
- ・ 用例を文ではなく、談話レベルで提示する
- ・ 用法を分析する（できるだけ複数の視点で）
- ・ 分析結果を検証する（できるだけ、日本人に用法を聞いてみる）
- ・ 考察する（感想を述べる）

尚、「観察、分析、考察の過程を自ら体験し、自分のことばで書かれたものを高く評価する」と学習者に伝え、これらの条件を全て満たしたレポートには 8 割の得点を与えた。あとの 2 割で、表記、形式、文体、文法、語彙の適切さについて評価した。

### 4 教師の期待と学習者の気づき

観察レポートの実施にあたり、教師（筆者）は以下の 4 - 1 から 4 - 6 に述べた視点に

において、学習者の気づきを期待した。これらの点は、授業中、教師（筆者）が積極的に言及したことである。これに対し、学習者のレポートにはどのような気づきがみられたか。

資料 1～資料 5 は、2001 年度から 2003 年度までの各春学期に提出された日本語観察レポートの内容を、学習者の分析の視点、感想、とりあげたことばの各項目別にまとめたものである。これをもとに、学習者の気づきという視点からみていくことにする。

注) 4 桁の数字は資料中のデータと対応している

#### 4 - 1 文から談話への気づき

分析の視点として、「話しことばと書きことば」2 例、「前につくことば」1 例、とりあげたことばに「けれども」2 例（0304,0305）「ですけど」1 例（0321）があったが、教師（筆者）が授業中よく指摘した「談話の展開」についての直接の言及はみられなかった。「1 つことばを選ぶ」という課題設定から、「談話の展開」への気づきを期待することには無理があるのだろう。しかし、4 - 2 以下に述べる学習者の気づきは、広義の「談話への気づき」といえるのではないか。

#### 4 - 2 辞書の中の意味から日常の中の意味への気づき

分析の視点として、「意味の多様さ」を取り上げたものが 5 例あった。また、感想では、「意味の多様さ」（0302、0308）の他、「辞書にないことば」（0103）、「第一言語をそのまま翻訳していた自分への気づき」（0303）がみられた。

「同じことばで相反する意味」（0112、0311）「同じことばでも年代により指し示す対象が異なる」（0209）などは、教室内の学習の範囲を越えて、自ら気づきを体験したといえよう。

なお、03 年度のレポートに、用例と用法において辞書や文法の記述を引用したものが 6 例見られたが、それについて自分なりの分析も加えており、リソースとしての辞書や文法書はレポート作成過程において否定すべきでないを考える。

#### 4 - 3 社会的行動としてのことばへの気づき

分析の視点の中で最も多くの学習者が取り上げている。「年齢差」の 18 例、「男女差」が 23 例と多かったのは、比較的差が出やすく、分析しやすかったためか。他に場面 6 例、地方差 1 例、流行語、新語 1 例があった。感想では、「年齢差」や「男女差」よりも「場面」について述べたものが目立った。(0107、0111、0202、0210、0305、0313、0323)

「相手との関係性」については、「人間関係」、「仲間意識」、「相手への配慮」「婉曲」も含めると 24 例にのぼる。これに対し「敬語」という視点は 3 例にすぎない。ここに、従来の型としての「敬語」から、「相手との関係性」の中で自ら選ぶ社会行動としてのことばへの気づきがみられるといえるのではないか。

#### 4 - 4 話し手と聞き手の心理への気づき

分析の視点では、「話し手の感情」に直接言及したものは 2 例であった。しかし、4 - 3 で扱った「相手への配慮」を加えれば、6 例となる。「相手との関係性」全体を相手との関係に配慮する「話し手の心理」と捉えれば、26 例とみることもできる。

感想においても、「相手への配慮」に言及し、考察した結果をみることができる。(0112、0203、0204、0206、0317)「相手への配慮」を優先することに対しては、積極的に肯定する感想がある(0206、0317)一方で、「(自分の考えを)はっきりいったほうがいい」(0318)という意見もみられた。また、「外国人の私もそれなりにほっとするのは一体感からくるのではないか」(0204)と述べて、日本語を話す自己の心理を分析した学習者もいた。

教室の中だけで、このような観察、分析の過程、それに対する考え方や行動の選択について教師が把握することは困難であろう。

#### 4 - 5 非言語行動への気づき

分析の視点の中では、音声 6 例、表情 1 例である。感想では、音声 1 例(0104)、音声 + 表情 1 例(0319)であった。文字を通して学んだことばを話しことばとして捉えなおす時、音声や表情への視点は本来欠くことのできないものであるが、音声や表情は文字化が

困難であることを考えると、この件数だけをみて少ないとはいえないのではないか。

01 年度は、少人数クラスだったこともあり、学習者一人一人の音声面の指導に時間を割くことができた。01 年度に音声 が 3 例あり、取り上げたことばの中に「あ～おまでの表現（言い方によって異なる意味になる点を分析）」（0115）というのは、このことを反映していると思われる。

#### 4 - 6 日本語の話し手としての「自分らしさ」への気づき

感想には、次のような「自分」への言及がみられる。

「自分も若いので若い人と友達になりたい」（0106）「私にすごく魅力的なことば」（0206）「使われる T P O をよく考えて私も使ってみたい」（0210）には、積極的に同化しようとする「自分」がいる。

「一体感を感じてそれなりにほっとする私」（0204）「日本人みたいに使うのはまだ気まずい（私）」（0201）「ときどき日本語がめんどくさいなあと思う（私）」（0211）には、異文化の間で揺れる「自分」が感じられ、「自分ははっきり言ったほうがいいと思う」（0318）には、異文化と対峙する「自分」がみられる。

また、「若者ことばで私は使えないと言われた」（0108）「下品だとか、常識のない人とみられる」（0309）には、他者の視線を通じた「自分」が現れているといえよう。

このように多様な「自分」がみられることは、学習者中心の学びが実践されたと考えてよいのではないか。

#### 4 - 7 その他

学習者の分析の視点には、やさしい感じ 2 例、やわらかい感じ、硬い表現、穏やかさ各 1 例がみられた。感想にも「やさしいことば使い」（0206）「やわらかい表現」（0317）がある。これらは、4 - 3 で述べた相手への配慮や、4 - 4 で述べた話し手の心理とも関係があるといえる。このような視点での分析は、相手を理解する上での重要な情報の一つであると同時に、4 - 6 にある「自分らしさ」にも反映することができるだろう。

## 5 考察

### 5 - 1 学習者の学び

第4章でみてきたように、学習者はレポートの課題作成を通じて、多角的な視点で、日本語を観察、分析し、多様な気づきを体験的に得た。その内容は、教師（筆者）の期待以上のものであった。

また、感想の中には、日本語観察という課題に対する肯定的な意見（0115、0205、0207、0303、0304、0310、0320）や、今後も日本語を観察する（0307、0322）という積極的な姿勢がみられた。

これにより、日本語観察レポートは、学習者の観察、分析能力を意識化し、教室の外での学びの方法を意識化することができる方法といえるだろう。

ただ、02年度に提出されたレポートの中に、話しことばの分析でないものが4例、明らかに自分のことばで書かれたものでない（引用のみ）ものが5例みられた。02年度は学習者の人数が増え、教師（筆者）が個別に対応する時間は01年度に比べて少なくなった。このことは、レポートを単に課題として出すだけではなく、学習者と教師との相互理解のための努力が必要であることを示している。

03年度も人数は20人を越えたものの、教師（筆者）の意図とのずれは最終的な提出時にはなくなっていた。これは、学習者に途中経過の報告を強く求め、個別に対応した教師（筆者）の態度も影響したが、同時に、学習者間のコミュニケーションが02年度に比べて多様であり、教師（筆者）の意図を先に理解した者から他の学習者へ伝達されたことも要因であろう。このことは、学習者間の相互理解の重要性を示している。

### 5 - 2 教師の気づき

日本語観察レポートを実施することにより、教師（筆者）もまた多くの気づきを得ることができた。例えば、次のような点である。

- ・ 談話の展開について分析させたいなら、課題の出し方をかえたほうがいい
- ・ 辞書や文法書の用例の使用については従来積極的ではなかったが、むしろそれを肯定す

ることで学習者に安心感を与え、その後の分析をしやすいように

- ・ 型として刷り込まれた「敬語」から、配慮表現への気づきを得た学習者がいる一方、「敬語」という概念で分析した者もいることに留意すべきである
- ・ 話し手と聞き手の心理分析について、別の課題として取り上げることも有効ではないか
- ・ 教室であまり発言しなかった学習者が、実は高い分析力をもっていることに気づいた

更に重大な気づきとして、「日本人」という枠組みを、教師（筆者）が一方的に与えてしまった点について述べる。

筆者は、「日本語を教えることが同時に筆者自身の価値観を押し付けることになるのではないか、或いは、学習者に日本社会への同化を強制するものではないか」という疑問を常に抱え、注意深くふるまってきたつもりであった。にもかかわらず、課題として「日本人」に聞くという指示を与えたことに対して無自覚だったことに気づいたのである。

レポートの感想には、「日本人」という表現が7例みられる。（0115、0201、0204、0205、0304、0315、0316）「日本人」という枠組みを前提として与えては、その枠組みを調節する異文化受容の妨げに働くかもしれないことに、教師（筆者）は早い段階で気づくべきであった。

しかし、4 - 6 でみたように、学習者は積極的に同化を試みる者ばかりでなく、異文化の間で「第3の場」（川上 2000）を見つけようとする者や、同化に「対抗するストラテジー」（斉藤・田中 1999）を保持しようとする者もいた。この多様さが「日本語観察レポート」を今後実施する上で、非常に重要であると考ええる。

## 6 おわりに

これまでみてきたように、「日本語観察レポート」は、学習者に様々な気づきをもたらし、教室の外での学びを促すものであるといえる。また、教師（筆者）も、レポートの分析により、多くの気づきを得ることができた。

今後は、その気づきを生かし、より詳細なアクション・リサーチの設計、実施を行い、学習者支援としての日本語科目を改善していきたいと思う。具体的な方向としては、談話の展開についての気づきを表現できるような課題を追加することを考慮中である。

「日本語観察レポート」は、大学生の日本語科目だけでなく、予備教育の段階でも実施



が可能な方法である。学習観の違いや、学習者の当面の目的の違いなどの問題点はあるが、予備教育においてもこの方法を取り入れれば、学習者は日常のコミュニケーション行動を「自分らしく」することができるのではないか。

「観察学習」は、文型練習に比べて学習の範囲があいまいで、学習の成果が明確でなく、学習の効果を「測定する」こともできないとの批判もあるだろう。しかし、本稿でみてきたように、学習の成果や効果を「把握する」ことは可能である。

言語教育で「観察」といえば、多くは「授業観察」をさし、その中の学習者は教師や研究者の観察対象としての存在であった。しかし、言語教育は学習者を観察対象にとどめていてはならないし、1時間毎の授業の効果測定が日常の「共同体の中で正統的参加者になるための学習」（レイヴ&ウェンガー1993）に優先するという授業のあり方に対しては、再考を要するのではないだろうか。

## 参考文献

- 市川伸一（1995）『学習と教育の心理学』岩波書店
- 川上郁雄（2000）「転換期の日本語教育」『宮城教育大学紀要 35 巻』1-19
- 斉藤里美・田中望（1999）「学習ストラテジーは学習者を幸福にするか」『日本語教育と日本語学習 学習ストラテジー論にむけて』くろしお出版
- 佐藤学（1998）「教師の実践的思考の中の心理学」『心理学と教育実践の間で』東京大学出版会
- 清ルミ（2003）「コミュニケーション能力養成の視座から既存教科書文例と教師の“刷り込み”を問う - 「ないでください」を例として - 」『2003 年度日本語教育学会秋期大会予稿集』155-161
- 泉子・K・メイナード（1997）『談話分析の可能性 - 理論・方法・日本語の可能性 - 』くろしお出版
- 中山亜紀子（2002）「大学コミュニティにおける異文化間トランス - 韓国人研究留学生の三事例から考える - 」『異文化間教育 16 号』異文化間教育学会 15-31
- 春原憲一郎（1992）「ネットワーキング・ストラテジー - 交流の戦略に関する基礎研究 - 」『日本語学』11, 10 月号 明治書院
- 久川伸子（2003）「留学生日本語科目における学習者支援の試み - 「日本語観察」という方法 - 」『埼玉女子短期大学研究紀要第 14 号』191-203
- 横溝紳一郎（2000）「日本語教師のためのアクション・リサーチ」凡人社
- J.レイヴ&E.ウェンガー・佐伯胖訳（1993）『状況に埋め込まれた学習 正統的周辺参加』産業図書

## 資料 1 分析の視点

### 01年度（提出人数16名）

年齢差 8 相手との関係 3 音声 3 男女差 2 流行語・新語 2 場面 2 敬語 1

話し言葉と書き言葉 1 相手への配慮 1 人間関係 1

### 02年度（提出人数20名）

意味の多様さ 3 相手との関係 3 年齢 3 相手への配慮 2 話し手の感情 2 男女差 2

やさしい感じ 2 敬語 1 やわらかい感じ 1 仲間意識 1

### 03年度（提出人数23名）

男女差 9 相手との関係 8 年齢差 7 場面 4 音声 3 相手への配慮 3 話し手の感情 2

婉曲 2 意味の多様さ 2 穏やかさ 1 やさしい感じ 1 話し言葉と書き言葉 1 表情 1

前につくことばの差 1 L 1 との比較 1 硬い表現 1 敬語 1 日本人らしさ 1 地方差 1

## 資料 2 2001年度 感想

0101 若者たちだけの流行語はどんな国に行ってもあると思う

0102 各国に自分たちの話しことばがある 本だけではわからない 口語の授業の必要はこれからわかってくると思う

0103 辞書に載っていないのに友達やテレビではよく使っている

0104 音調は人によって違うこの点が面白いと感じる 自分もよく使い、相手が返事をしてくれると嬉しい

0105 とてもいいことばなので気持ちを込めて言うと人間関係がもっと親しくなるのでは

0106 若者の話し方が面白い 敬語も必要だが、自分も若いので若い人と友達になりたい

0107 仕事場（コンビニ）でこんにちは といって入っていったら店長に仕事が始まる前はいつでも「おはようございます」だと注意を受けた その後使い方に注意するようになった

0108 若者ことばで私は使えないと言われた

0109 各国の若者は考え方が近くなっていて、新しいことを知りたがっている

0110 同じ内容でも相手によって使い方が違う

0111 食事が終わったら大切なことば

0110 同じ内容でも相手によって使い方が違う

0111 食事が終わったら大切なことば

0112 一見相反する意味が同じことばで表されるのは不可解 しかしありがたいと同時に負担をかけて申し訳ないという論理が背後にある

0113 初めて聞いたとき意味が全然わからなくて困った 流行の語彙だと思う

0114 国の状況や時代によって、また社会的な雰囲気によって意味が変わることや短くなる場合があると思う

0115 授業後日本人の話をよく注意したらやっぱりいっぱいある

0116 若者たちだけの流行語はどんな国に行ってもあると思う

### 資料3 2002年度 感想

- 0201 日本人みたいに使うのはまだ気まずい
- 0202 意味は複雑 時と場合に応じて違っている
- 0203 日本語は対話の中で自分の感情より相手の感情をまず考えていう特徴がある
- 0204 日本人は自分の意見をはっきり言えない この表現を使うことで自分は日本人の常識から外れていないことをあらわしたいのではないかな 外国人の私も「やっぱり」を使うとそれなりにほっとするのは一体感からくるのではないかな
- 0205 日本人にきいたら「なんのお愛想もございませんで」はあまり使わないことがわかった 今度のことはいい経験になった
- 0206 謝る必要のない状況で言われた時驚いた 相手の気持ちを考え、他人に思いやりがある「すみません」は私にすごく魅力的なことば 日本人のやさしいことば使いは人々の心の潤滑剤として活用している
- 0207 小さなところに注意したら、日本語を習うことが楽しくなれる
- 0208 ことばはいろいろな意味を持っているが、話すときは意味を考えながら話したことはない
- 0209 40, 50代以上の人間にとってもったいないの対象は食べ物であろう 今の若者にとって最も「もったいない」のは労力の無駄使い、時間の浪費など対象は変わってきた
- 0210 これらのことばはとてもべんりだが、外国人にとっては使い方が難しいことばでもこれからは、使われるTPOをよく考えて私も使ってみたいと思う
- 0211 ときどき日本語がめんどくさいなあと思うことがある 「郷に入っては郷に従え」敬語を使って相手に敬意を表すことは大切なことである

### 資料4 2003年度 感想

- 0301 言葉を勉強するというのは同時にその国の文化(の影響?)をうけているのだろう
- 0302 日本語は似た意味の言葉の種類が多く、奥深い言語だと感じた
- 0303 中国語をそのまま翻訳してしまったことも多い 気になる単語を分析、検証、考察して、客観的に理解し、自己の日本語力を高めると思う
- 0304 このレポートのため、意識的に「けれども」を使ってみたところ、日本語が上達したと日本人に言われ、嬉しかった
- 0305 場面によって表現を変えるということを使いたいと思う
- 0306 人によって、場所によって正確な使い方を理解できたら勉強のポイントで、人生にも成長になると思う
- 0307 いろいろな言葉の問題はこれからの生活の中で発見されると思う
- 0308 ひとつの言葉に意味はひとつと思ったが、いろいろな説明があって理解が難しい

0309	自称詞の使い分けを誤ると下品だとか、常識のない人とみられるだろう
0310	よく注意して勉強すると難しくなくなると思う
0311	おわびかお願いか理解しないと、とんでもないことになるから注意が必要である
0312	日本社会の発展とともに、言葉の中の男女差もだんだん少なくなった。将来はなくなることを期待する
0313	日本語の会話を理解するためには言語環境と話す対象などが大切だ
0314	言葉というのは、人間関係を結ぶ重要なものである。一つの国の言葉はその国の文化国民性と深い関係があると思う
0315	1 人称「私」という言葉さえいろいろな言い方がある 上手になりたいなら日本人とのコミュニケーションはとても重要なことだと思う
0316	よく日本人と会話を練習して、それぞれの雰囲気を経験して、日本語が上手になると思う
0317	やわらかい表現のほうが相手を良い気持ちにさせるのは納得できると思う
0318	自分ははっきり言ったほうがいいと思う
0319	アクセントや表情を言葉に加えることにより、相手に伝えたいことが伝わる
0320	いいですという言葉がやっと理解できて、すごく嬉しかった。わからないことがあったら、すぐきくといい
0321	単語や文法の暗記だけでなく、日本人の考え方、文化、昔からの習慣などの勉強が必要だ
0322	「どうも」以外に広い意味を持っている日本語を観察しようと思う
0323	相手と場合をよく考えた上で使う必要があると思う

## 資料5 とりあげたことば

<b>01年度</b>		
0101 超	0102 じゃん	0103 超
0104 じゃあねえ	0105 すみません	0106 まじで
0107 おはようございます	0108 めちゃくちゃ	0109 超
0110 お帰りになりますか	0111 ごちそうさまです	0112 すみません
0113 まじで	0114 うめ、すげ	0115 あ～おまでの表現
0116 超		
<b>02年度</b>		
0201 そうですね	0202 どうも	0203 いいんですか
0204 やっぱり	0205 お愛想	0206 すみません
0207 気にしない気にしない	0208 はい	0209 もったいない
0210 どうも、だから	0211 すみません、いかがですか、けっこうです	
* 課題の意図とのずれ(話しことばの分析でないもの) 4 * 参考例などの丸写し 5		

**03年度**

0301 ちょっと	0302 わたし	0303 あなた
0304 けれども	0305 けれども	0306 わたし
0307 ちょっと	0308 ちょっと	0309 わたし
0310 いいです	0311 すみません	0312 かな
0313 すみません	0314 ちょっと	0315 わたし
0316 待ってよ	0317 今度遊びに来てね	0318 ちょっと
0319 ちょっと	0320 いいです	0321 ですけど
0322 どうも	0323 とりあえず	